

久留米

[December 24, 2015]

高専通信

第80号

久留米工業高等専門学校

〒830-8555 久留米市小森野1-1-1

TEL:0942-35-9300

<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

寝食を忘るることなかれ

久留米高専生は、挨拶が苦手である、とのお話を校長引き継ぎの時に承り、実際に他の先生方からもその種の指摘を受けた。校長として久留米高専に赴任してから8か月以上経つが、自分自身は、必ずしもそうは思っていない。賢明な本校の学生諸君が挨拶の是非を弁^{わきま}えないはずはないし、体験的にも、私の挨拶に対して元気よく笑顔で挨拶を返してくれる学生は多い。

ただ、一人で考え込んでいたり、友達と話し込んだりして、残念ながら、挨拶が一方通行になってしまうことがあることも事実だ。そうした時は、それは久留米高専生特有の集中力のなせる業なのだ^と理解するようにしている。その様が、初めて図書館を訪ねた時の印象とリンクするからだ。図書館では、糸をピンと張ったような雰囲気の中で、学生たちが調べ物や自主勉強に集中していた。こちらとしては、取り付く島もなかった。久し振りに見る光景であり、大学時代の図書館を懐かしく思い出した。

「寝食を忘れる」という言葉がある。寝ることも、食べることも忘れて、何か一つのことに集中する、熱中する、あるいは没頭する、という意味である。研究を始めた^{ちまた}ら、食べることも寝ることも面倒になってしまうという経験は自分自身にもあるし、勉強に熱が入って、食事を摂るのを忘れていたり、いつの間にか時間が深更に及んでいた、というようなことは、高い集中力を持つ久留米高専生であれば、誰でも一度や二度は経験しているのではないかと思う。また、巷^{ちまた}には、そうした経験がないと「一流」にはなれないというような言説があるくらいである。

しかし、物事に集中したり、熱中したりするあまり「寝」も「食」も本当に忘れられるのか、あるいは忘れてよいのか、という素朴な疑問が湧いてくる。

最近、櫻井武『睡眠の科学』（講談社、2010年）を読んだ。櫻井氏は、柳沢正史氏とともに覚醒を制御する神経ペプチド



久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二

(アミノ酸がいくつかつながったもの)「オレキシン」を発見した人で、将来のノーベル生理学・医学賞の候補者としてささやかれていることでも知られている。同書は、覚醒と睡眠を操る脳の複雑かつ巧妙なメカニズムを分かりやすく説明している。そして、同書の中で、櫻井氏は、睡眠には、脳の休息、さらには能動的に脳の整備と修復を行う役割があり、睡眠は健康を維持するために不可欠な現象であると述べるとともに、睡眠が、記憶の強化・固定化に深く関わっていることに触れている。睡眠中にわれわれの様々な学習は強化されている、というのだ。睡眠は、研究や勉学のためにも、積極的に摂取すべしということになろうか。

もっとも、近年7時間位が最も健康によいと言われている必要睡眠時間については、ナポレオンやエジソンのような短時間からアインシュタインのような長時間まで個人差があり、融通が利く、とも述べている。

他方、「食」はどうか。櫻井氏は、『食欲の科学』（講談社、2012年）で、食欲と摂食に係る脳の働き、すなわち空腹と満腹にまつわる制御メカニズムをレプチンやグルコース、先のオレキシンなどの体内物質を核にして説明し、最後に、「生命維持に深く結びつく食欲という機能を操作することが、感情や気分、代謝など様々な機能にどのように影響するかということには、慎重に配慮しなければならない」と、食欲の制御に警鐘を鳴らしている。ヒトという生命体の根源的活動である「食」は、病気治療を除き、通常は制御してはならないもののようである。

久留米高専生よ、挨拶はともあれ、寝食は忘るることなかれ、である。

高専祭を終えて

高専祭を終えて 高専祭実行委員会委員長
制御情報工学科4年 川崎 靖広

11月2日(月)の前夜祭、3日(火)の文化祭への参加、ご協力、誠にありがとうございました。今年度も、本校の最大行事である高専祭が無事、開催されましたこと、また実は三年ぶりに前夜祭、文化祭ともに屋外ステージで行えたことに、安堵と喜びでいっぱいです。

まず、実行委員会の不手際で学生のみなさんにはご迷惑をかけたことがあったかと思っています。しっかりと今年度の反省をし、来年度に引き継いでいこうと考えています。来年度は一人の高専健児として全力で高専祭を楽しませていただくつもりです。来年度の実行委員会に大いに期待し、ひっそりと応援しています。

私は一年生の頃から実行委員会に所属し、今年度は委員長を務めさせていただきました。の中で感じたことがあります。それは、神輿行列もステージイベントも、出店・展示がメインストリートを埋め尽くすのも実行委員会だけでは行うことは出来ず、参加してくれる学生のみなさんがいて初めて成立するという事です。

また、一つのことを最後までやりきるといことは、大変難しいものだと感じました。時には誰かと衝突し、仲違いして孤独になりそうなきもありました。でも、思い出してみると実は見てくれている人がいて、知らないうちに助けられていたんだと今になって思います。そして、やり遂げた時、様々なわだかまりを超える感動が何事でも待っていると私は思います。

みなさんのご協力があり、第50回高専祭を開催することができました。見守ってくださった保護者の皆様、学生課、教職員のみなさ、日夜準備を共にしてきた実行委員会のみな、50年間の高専健児のみなさん、誠にありがとうございました。高専祭という一つの事物により、素晴らしい時間を多くの人と共有できたことを大変うれしく思います。・

最後に、ご唱和ください。
「高専健児、元気あるか!？」
「 」
ありがとうございました。

体育祭を終えて 体育祭実行委員会委員長
制御情報工学科4年 高崎 隆成

体育祭実行委員会では高専祭期間で一番初めの行事である竹取とやぐら建設、そして、高専祭の最後を飾る体育祭を運営しました。今年の竹取は竹取現地である高良山での動きが非常にスムーズで例年に比べて、早く切り出しを終えることが出来ました。これは、各学科の切出し隊と運搬隊の人たちがとても協力的であったためだと思います。運搬も大きな事故はなく、無事に終えることができました。最近運搬隊に参加するメンバーに上級生も増えています。竹取に対して積極的に楽しんでくれる人が多いと、この行事がより活気あふれるものになると思います。今回竹取に参加してくれた学生の皆さんにはとても感謝しています。

そして、今年の体育祭は天気にも恵まれ、予定通り9時に開祭することが出来ました。今年の体育祭は昨年度よりも競技数を増やし、より多くの人に参加できれば、と考え各競技あたりの競技者数も多くなるようにしました。競技内容は変更したものが多くあったため、困惑した競技者も多くいたと思います。そのため、体育祭実行委員のメンバーは当日、忙しいながらも急な変更などの対応を迅速に行っており、とても頼れるメンバーでした。終了時刻は予定を大幅に超え、体育祭実行委員としては反省するべき点であると感じました。しかし、最後にはみんな笑顔で高専健児をして、今年の体育祭を運営してよかったと心から思えました。まわりの学生からも、今年の体育祭はとても楽しかったなどの言葉をもらえて、とてもうれしかったです。今回、体育祭に関わってくれた体育祭実行委員、教職員の方々、学生のみなのおかげでこのような体育祭になったと僕はと思っています。本当にありがとうございました。



工場見学旅行

工場見学旅行を終えて

機械工学科 4 年 橋本駿太郎

私たちは、今回の旅行で東京・神奈川地区にある日本精工藤沢工場、牧野フライス製作所厚木事業所、JAXA調布航空宇宙センター、JFEスチール東日本製鉄所京浜地区の4つの工場を見学しました。

日本精工では、大型ベアリングの製造工程を見ることが出来ました。さらに、日本精工では現在、自動車のステアリングやロボットなどの先端技術の開発も行なっていると知り驚きました。牧野フライス製作所では、組み立てた装置で出荷前に試験加工を行う様子を見ました。機械の動きをチェックすることで、受け渡し後の不具合を減らすそうです。このことから、現場では不良品を出さないために、細かい配慮が必要なことを学びました。また、見学後にはOBの方々のお話を伺い、入社後の仕事や職場の雰囲気を知ることができました。JAXAでは、新素材として注目されるCFRP(カーボン繊維強化プラスチック)材の研究開発の現場を見学しました。下に掲載している写真はCFRP材を焼き固めて成形するための窯です。CFRP材は、リベット締結の必要がないため軽量化でき、航空機に最適の素材であることが分かりました。また、CFRP材の板を手にとったところ、アルミニウム合金材より格段に軽く、素材自体も軽量であることを実感しました。JFEスチールでは、溶けた鉄から不純物を取り出す転炉を見せてもらいました。安全のため窓越しからでしたが、転炉が反転した時には、自分たちの所まで熱が伝わってきて、溶解した鉄の熱さに圧倒されました。

こうした工場見学と共に、鎌倉の大仏や日本科学未来館、お台場の観光および自主研修もとても楽しい体験でした。自主研修では、東京ディズニーシーを満喫することができました。また、ホテルでの時間も充実していました。豪華な食事や、大人数でUNOなどのゲームをして盛り上がったことは貴重な思い出です。

今回の旅行では、企業についての知識と楽しい思い出をつくることができました。この経験を、今後の学校生活や進路の選択に生かしていきたいと思います。



工場見学

電気電子工学科 4 年 園井 柊平

私は9月27日から5日間、東京や神奈川に所在するいくつかの企業や大学に見学に行きました。今回の見学は、進路について考えることができるよい機会と思い、企業や大学がどのような場で、自分が何をしたいのか、そのためのヒントを得ようと考え、工場見学に参加しました。ここではその中でも、日本航空、リコー、東京工業大学の見学について取り上げたいと思います。

日本航空では初めて知ることが多く、様々なことを学ぶことができたと思います。飛行機の仕組み、種類、整備の種類や仕事内容をとっても興味深く見学できました。また、飛行機の格納庫では、整備中の飛行機や間近で離着陸する飛行機を見学することができ、大変貴重な経験をすることができました。人の命に係わる仕事だと思うので、その分厳しいことが多いと思います。しかし、やりがいをもって働ける仕事だとも感じました。

リコー(海老名リコーテクノロジーセンター)では、普段は入ることのないようなオフィスを見学でき、オフィスや施設の素晴らしさに驚きました。そのオフィスは、そこで働く社員のことを考えたつくりになっており、働きやすい環境の会社であるということが伝わってきました。また、会社内での情報交換、社員の研修等による社員の個人のスキルアップが、社員の仕事への意欲向上につながり、会社全体のレベルアップにつながっていると感じられました。

東京工業大学では、研究、学業、学生生活がどれも充実していてレベルが高いと感じました。スパコンやその他の施設を見学できました。学業やサークル等学生にとって過ごしやすく、魅力的な大学だと思いました。高専とは、違った学生生活を送っている様子を見させていただき、自分のレベルの低さが身に染みました。今からでも、高専での生活を変えていきたいと考えさせられました。

以上より、それぞれの企業には、それぞれの特徴があり、自分が興味を持ってやりがいのある企業を選ぶために、工場見学やインターンシップが必要であるということがよくわかりました。企業は、入ってみなければわからないことが多いと思うので、今回の工場見学で得られた情報を、今後の進路に生かしていこうと考えています。大学進学に関しても、受けたと思っている大学に実際に行ってみることで考えが変わることもありうると気づけたことは、今回の見学で得た大きな成果です。自分の進路を決めるうえで、今回の見学は大変貴重なものとなりました。



工場見学旅行

工場見学旅行

制御情報工学科 4 年 石王丸 智

私たち制御情報工科は、9月27日より、関東方面へ工場見学旅行に行ってきました。見学した場所はJAL整備工場、アサヒビール工場、NTTドコモR&Dセンター、ジャパンマリンユナイテッド(造船所)、日本マイクロソフトと実に多種多様でしたが、いずれの場所でもとても貴重な知見が得られました。例えば、JAL整備工場やジャパンマリンユナイテッドの工場では徹底した従業員の安全対策がされていました。具体的にはヘルメット着用義務や、作業場にラインを引き注意を促すという社風が印象的でした。また、日本マイクロソフトのオフィスは従来の会社のイメージとは大きく違い、まるで外国にいるように感じられました。このような経験が出来るのも高専の工場見学旅行ならではのようです。

一方で、私はこの旅行の目的は、企業から知見を得ること他にも、学生時代の思い出を作るといえることがあると思うのです。せっかくの旅行なのだから良い思い出にすべきでしょう。そのために必要なことは「メリ」と「ハリ」であると、私は今回学びました。当然、企業へ訪問する際は、きちんとした格好・態度でいなければなりません。さらに、ホテルに宿泊するため、他の宿泊者への配慮もしなければなりません。しかし、いつまでも緊張していると気が滅入ってしまいます。だからこそ、自由な時間はリラックスして友人と話したり遊んだりすることがより楽しく感じられました。そして、自主研修の日にはグループを作り、自分達で計画を立てて自由に東京を散策し、秋葉原や東京スカイツリーといった場所に行くことができました。自主研修も企業を訪れたことと同じくらい貴重な体験になりました。

このような機会に、メリハリを持った行動ができるようになることが、大人になるといえることなのかなと思った私でした。

最後にもう一つ、いい思い出にするために、体調管理もしっかりしておきましょう。こんな時に風邪を引いたりすると大変ですからね。



工場見学旅行を終えて

生物応用化学科 4 年 草場 知沙都

インターンシップ、成果報告会、期末試験…慌ただしい夏の終わりを乗り越え、やっと迎えることができた工場見学旅行。わたしたち生物応用化学科は、9月27日から10月1日まで関東地方へ行ってきました。

2日間かけて、大日精化工業東京製造事業所、東燃ゼネラル石油川崎工場、不二製油千葉工場、JNC石油化学市原製造所の4社を見学させていただきました。心躍る旅行も、おろしたてのスーツを着ると一気に身が引き締まりました。実際に現場を見学してみると、顔料・インク会社、石油会社、食品会社のそれぞれで工場の規模や現場の雰囲気は違っていましたが印象的でした。また、各社で久留米高専出身の先輩方がたくさん活躍していました。懇談の場を設けていただき、短い時間ではあったものの、就職に生かすことができる興味深いお話を伺うことができ、とても貴重な時間となりました。

今後、就職を考えているわたしにとっては、インターンシップ先とは違う化学系の工場を見学することができ、就職先に関して視野を広げられたことは、大きな収穫となりました。さらに、今まで漠然としていた「社会に出て働く」ということをより身近に感じるようになりました。

そして、工場見学旅行を振り返ってみて、やっぱり最初思い出すのはクラスみんなで過ごした時間です。鎌倉の大仏見学に始まり、横浜の赤レンガ倉庫のビッフェ、中華街の散策、眠いのを我慢して起きようとした夜、移動時間のバスの中でさえ、書ききれないほどの思い出でいっぱいです。個人的には、1年ぶりに引っ張り出してきた制服を着て、友達とディズニースーを閉園時間まで駆け回ったことが1番の思い出です。

工場見学旅行は、改めて自分の将来について考え、働くことに対するイメージをつかむことができる貴重なものとなりました。それだけではなく、クラスの仲間今まで以上に深まったように感じます。今回の旅行で得たものを生かし、残りの学生生活の時間を大切に過ごしていきたいと思っています。



工場見学旅行

工場見学旅行に参加して

材料工学科 4 年 坂田 美穂

本年度の材料工学科工場見学旅行は、関西方面へ4泊5日の日程で実施され、京都を代表する伝統工芸品「清水焼」の製作体験を行うとともに、材料工学に関わる工場や大学研究所を見学しました。

一日目は、清水焼窯元の森陶器館で「清水焼」の製作工程を見学し、粘土の成形や釉薬を塗る作業や電動ロクロを用いた成形工程を間近に見て、長年の経験を積んだ職人さんだからこそ成せる熟練の技に感動を覚えました。また、実際に手廻しロクロを用いて手工業製品を製作する体験をしました。なかなか思うような形にならずに苦戦しましたが、スタッフの皆さんに手伝っていただけて何とか無事に完成することができました。

二日目午前は、京都大学エネルギー理工学研究所の先端研究施設を見学し、中でも特に「ヘリオトロンJ」という大規模な高温プラズマ閉じ込め実験装置が印象に残りました。また、透過型電子顕微鏡観察用の試料等の材料加工観察装置を用いて、集束イオンビームによって金属薄片上に刻まれた久留米高専の校歌を電子顕微鏡レベルで目の当たりにし、高度な微細加工技術に驚きを隠せませんでした。さらに、大学研究所の研究者や大学院生との懇談等を行い、日本の学術研究の最前線を直に感じられる貴重な経験となりました。同日午後は、(株)ニッカトー堺工場でセラミックスチューブの一連の製造工程を見学し、授業で習ったセラミックスの製造プロセスを実際に目で見て理解を深めることができました。

三日目は、三菱重工業(株)総合研究所で高温ガスタービンの製造工程や様々な材料評価・試験設備を見学しました。日本の産業界を支える大企業だけあって、工場や研究所の規模はとて大きく、設備も充実していました。ここでも授業で習った材料強度試験や鋳造技術等を広く見聞き、学校で学ぶことの重要性を再認識しました。また、本校材料工学科を卒業後、同社に就職された先輩方との懇談を通して、より優れた製品を生み出すために日々仕事をされている先輩方にも尊敬の念を抱きました。

今回の工場見学旅行では、自らの進路意識を高めることができ、将来自分がどんな仕事に就きたいのかを改めて考える大変有意義な機会となりました。本旅行を企画し、引率してくださった担任の岩田先生と笹栗先生に心より感謝いたします。



専攻科インターンシップ

FCデザイン株式会社での・インターンシップを終えて

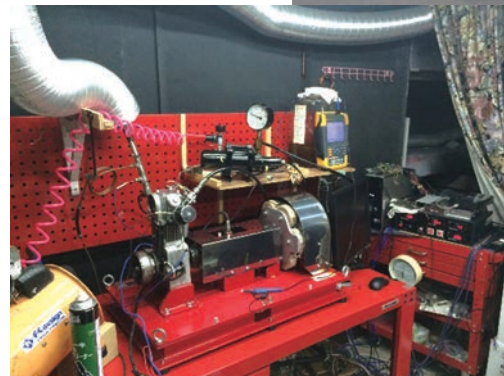
専攻科機械・電気システム工学専攻 1 年
小島 聖士郎・小川 圭

私たちは、専攻科インターンシップとして、7月29日から8月25日の期間、広島県安芸郡府中町にあるFCデザイン株式会社にて実習させて頂きました。FCデザインは、エンジン動力計やエンジン電子制御システムを開発設計から製造販売まで行っている会社です。

インターンシップの前半は、私たちの専攻科研究基礎の内容である「低燃費競技用超小型ディーゼル機関の開発」について研究を行いました。研究では、学校にあるFCデザイン社製の動力計を広島に持ち込み、社長や社員様による指導の下、エンジンの性能試験を行う予定でした。しかし、学校の研究室では順調に始動していたエンジンが、広島での試験では始動しなくなり、結果として原因究明に追われる毎日となりました。

インターンシップ後半は、FCデザイン株式会社が運営している小燃費競技大会(通称エコラン大会)の準備運営を手伝わせて頂きました。大会における事前の準備から、当日の運営において、実際に作業させていただき、多くの経験を行うことができました。また、大会を無事に運営することができたときの満足感は大きなものでした。

インターンシップ前半はディーゼル機関の故障と向き合うなかで、エンジニアとしての正しい事象のとらえ方が重要であることを学び、後半では事務作業のなか、先を見据えた仕事の仕方や分かりやすい業務報告の仕方、作業効率化を考えるとといった、社会人として働くうえで大切なことを学びました。また、研究に対する姿勢もこれまで以上のものとなり、自分自身を鼓舞する良い機会となりました。最後に、貴重な経験をさせて頂き、多くのご指導を賜りましたFCデザインの皆様、および、このような機会を提供して下さった機械工学科の中武先生に、心より感謝申し上げます。



専攻科インターンシップ

福岡県農林業総合試験場での
インターンシップを終えて

専攻科物質工学専攻 1年 長井 晴香

私は、福岡県筑紫野市にある福岡県農林業総合試験場で3週間のインターンシップをさせて頂きました。福岡県の品種であるイチゴ「あまおう」や、米「元気つくし」は福岡県農林業総合試験場で品種改良され、県内のみならず全国で販売されている福岡県を代表する農作物です。また、品種改良のほかにも、農作業における環境に配慮した新技術の開発や産地を活性化する新技術・新商品の開発など、福岡県の農業に関する試験研究・開発を行っています。今回私は、イチゴの育種に関する研究を行っている生産環境部のバイオテクノロジーチームで実習をさせて頂きました。

福岡県のイチゴの品種である「あまおう」の真っ赤で大きな果実は消費者の評価が高く、販売単価日本一を誇っています。しかし、あまおうは品種登録後10年が経過し、育成者権の有効期限は残り10年になり、新品種の開発が強く望まれています。バイオテクノロジーチームでも育種の効率化のためのDNAマーカーの開発が取り組まれています。実習では、その研究の一部である育種の場に適したイチゴの葉組織からのDNA抽出法の検討、及び遺伝解析の実習を行いました。処理しなければならない膨大なデータ量に驚きつつ、そのデータの中から遺伝型と表現型の相関を見つけることが出来たときの興奮は忘れることのできない体験となりました。今後のDNAマーカー研究の進展が楽しみです。

私は中学生のときにメンデル遺伝について興味をもったことがきっかけで久留米高専へ進学しました。メンデル遺伝を授業で学び、基礎的な実験技術を習得していくにつれて、応用できる局面を待ち望んでいました。そのため、今回のインターンシップでメンデル遺伝が関与している品種改良の場に携われたことは毎日が新鮮で非常に楽しく、研究者への憧れが益々強くなりました。この研修で得た遺伝子に関する知識や経験を今後の進路に生かしていきたいです。今回、インターンシップ実習という貴重な機会を与えてくださった福岡県農林業試験場の皆様に、心より感謝申し上げます。



国際交流

タイとの国際交流

企画主事補 黒木 祥光

本年度もタイの高校生、大学生と多数の学生交流を行いました。参加した本校の学生はそれらの違いを意識していない（意識する必要もない？）と思いますが、それぞれの交流について簡単に説明したいと思います。本年度実施（予定も含む）の交流は以下の通りです。

1. 9高専連携事業のインターンシップ受け入れ、および・バンコクでの学生派遣プログラム

平成24年度から次年度まで予定されている、九州・沖縄地区の高専による大学間連携事業、通称9高専連携事業の一環として実施しています。前者では、6月を中心に約1～2か月間タイの有力大学の学生が研究室に配属されます。本年度は14名を受け入れました。後者では、高専生が8月下旬にタイを約2週間訪問します。本校から2名が参加しました。派遣では交通費が全額支給されますが、タイの学生はほぼ全員が自費で参加しています。



2. さくらサイエンスプラン

科学技術振興機構（JST）に採択された事業で、モンクット王工科大学ラカバンから10名の学生を7月上旬に約1週間受け入れました。食費や含めた旅費、施設見学など必要経費全額が支援されます。

3. タイ王国高校生招聘交流事業

夜須高原青少年自然の家が受託した事業の一環として本校が協力しました。数時間の滞在でしたが、授業での交流以外に留学生と交流する時間を設け、日本で学ぶ先輩としての意見を聞いてもらいました。



4. 日本学生支援機構（JASSO）による海外留学支援制度・（協定受入）プログラム

本校がJASSOに奨学金を申請し、採択されたもので、月当たり（月計算は切り上げ、ただし8日以上）8万円の奨学金が支給されます。11月から1名を、1月から5名の学生を1か月半程度受け入れます。

1.と2.が重複する7月上旬に24名のタイの学生が学内にいましたので、多数の学生交流を行いました。交流では主に少人数のグループに分けて自由に会話を楽しんでもらいました。互いに母語でない英語で会話をしますので、その苦労を分かち合うとともに、英語学習の重要性を理解できたと思います。アンケートの結果も非常に好意的でしたので、次年度以降も引き続き交流を実施できればと思います。

学生会清掃活動

学生会清掃活動

学生会中央執行委員会文化局局長
制御情報工学科4年 吉田 涼一郎

7月28日9時より、学生会主催で清掃活動を行いました。活動内容としては、一番街でのゴミ拾い、宮の陣駅周辺の清掃、小森野団地や農道の清掃、校内自転車整理、校内清掃などでした。清掃終了後は、学生主事の辻先生のご支援、多数の学生さんのご協力により、懇親会が開かれ、スイカやかき氷などが振る舞われました。夏の猛暑が厳しい中、集まってくださった学生さんや先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。

2年前よりコンスタントに続けているこの清掃活動ですが、毎回100名近い方々のご協力をいただけており、本当に有り難く思っております。私達はこの清掃活動の中で、学生の皆さんに校内や周辺地域の環境を知ってもらい、少しでもそれを良くしていこうという方向に意識を向けてもらいたいという目的があります。つまり、ただ単に綺麗になればよいという考えでは行っていないので、参加して下さる学生さんの人数が多いということは大変喜ばしい限りです。しかし、残念なことにまだ放置自転車は無くなっておらず、校内のゴミも見受けられます。これは私達学生会の学生の皆さんへの意識改革がまだ弱いということも原因の一つにあると思いますので、これからもより多くの人により意義のある清掃活動にさせていただくために改善を行っていききたいと思います。

今回の清掃活動は春休みに行う予定です。たくさんのご協力をよろしくお願い致します。



女子学生交流会

女子学生交流会に参加して

生物応用化学科4年 篠原 つぐみ

来年3月に行われる「高専女子フォーラム in九州沖縄」に向けて阿蘇で開催された女子学生交流会。この女子学生交流会には本高専を含め九州沖縄地区の高専から5校21名の女子学生が参加しました。

下は1年生、上は専攻科2年生という幅広い年齢での交流会でしたが、1日目はフルーツバスケットやクバーラと呼ばれる海外のスポーツを通じて交流し、共に生活することで他高専の学生にも意見を言い合えるほど打ち解けることが出来ました。そして2日目には各高専による発表が行われ、久留米高専からはクラスマッチでの女子競技、女子学生が主体となった豚汁会や校内清掃後の交流会、3年生の学生が参加しているフィボナッチ数列の研究などを紹介しました。他高専の発表の中には1年生のうちから取り組んでいる創造研究の紹介や、2年間タンザニアという国で青年海外協力隊として活動していた学生による発表もあり、私たちの高専にはない活動や、体験したことがない貴重なお話を聞くことができました。

今の日本社会では女子の就職が難しかったり、継続して働く女性の人数が少なかったりと女性の社会進出が問題として取り上げられています。高専においても全体に占める女子学生の割合は低く、久留米高専でもまた女子学生の割合は約2割とけて高くはありません。しかし今回の女子交流会を通じて、女子学生の積極的な活動を見聞きし、生活における女子の柔軟な対応をみることができ、必要なのは女子学生の活動やそれを知ってもらう機会を増やすことなのではないかと感じました。

3月に行われる高専女子フォーラムをその最初の機会として女子学生の活動や姿勢を企業の方々や一般の方々に知っていただき、また私たち女子学生も今まで以上に積極的に活動し、学んでいくことが大事であると思いました。



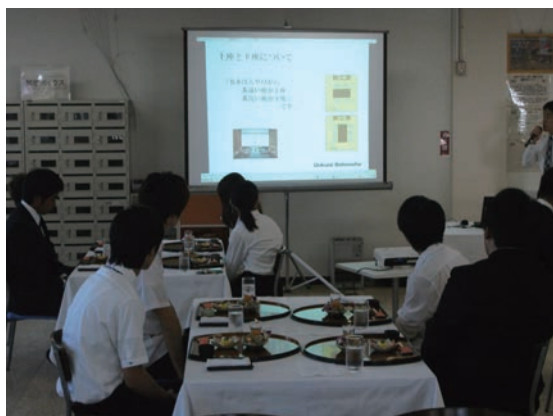
学生寮の行事報告

寮の行事報告

寮務主事補 川嶋 克利

和食作法講習会

10月4日(日曜日)13時30分～15時、学生寮食堂にて、和食作法講習会を開催しました。日頃から食事を提供してくださっている株式会社魚国総本社九州支社さんの指導のもと、懐石料理の基本的な作法について講習を受けました。20名の寮生(筑水寮15名、つつじ寮5名)がフォーマルな姿に身を包み、食堂に集まりました。先付、椀物、前菜に始まる本格的な懐石料理をいただきましたが、出された料理が普段お目にかかれなほど豪勢で、見た目も鮮やかな上、非常に美味しく、参加した寮生の目と舌は非常に満足した様子でした。一方、これまであまり気にしていなかったお箸などの食器の扱い方や、難しい漢字の書かれたお品書き(海老真薯と書かれても、なかなか読めるものではなかったようです)にやや圧倒されていましたが、全体として、参加した寮生は大いに満足したようです。



防災避難訓練

10月14日(水曜日)16時、谷光消防隊長(材料工学科4年)の合図とともに、筑水寮4階補食室にて火災が発生したという想定のもとで防災避難訓練を実施しました。この訓練を通じて、火災時における消火活動や避難経路の確認を行いました。その後、今回の訓練に協力してくださった久留米市消防署員から、火災においては煙が危険であるなどの指導を受けました。そのあと、署員の指導のもと、実際の機器を用いて放水訓練ならびに消火訓練を体験しました。参加した寮生たちは、消防署員の話に熱心に耳を傾け、防災に関する意識がさらに高まりました。



非常食シミュレーション

10月14日(水曜日)の昼休み、放課後の避難訓練に先立って、寮生は通常の昼食の代わりに非常食を食べました。お湯を入れてもどした炊き込みご飯、カレースープなど、非常時を想定したものでした。普段の昼食と比べれば満足のいく食事ではないかもしれませんが、いつくるかわからない緊急事態に備えて、非常食を食べてみるのは、有意義なことなのです。



新任者紹介



権田 裕
所 属 総務課用度係
職 名 係員
採用日 平成27年11月1日
前 職 自動車会社営業職

抱 負 11月に総務課用度係に採用となりました。ごんだと申します。前職と全く違う職種のため不慣れな面も多いと思いますが、一日でも早く仕事を覚え皆様の学校生活に貢献できるよう努めてまいります。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。
趣 味 ゴルフ・ドライブ

プログラミングコンテスト・ロボットコンテスト・スーパーコンピューティングコンテスト

高専プロコンの感想

制御情報工学科 4年 久保田 祥平

私は昨年と今年に高専プロコンに参加しました。前回も今回もプログラムはほとんど、書いていないため、プログラミングのことについては説明できませんが、自分のリーダーについての仕事についての感想と反省をこの場所でしたいと思います。

さっき書いたように、私は今回リーダーをさせていただきました。リーダーは目標を設定して、どのようにして、目標に到達するための方法を考えて、実行する事が仕事になります。具体的には、会議の場を設けてメンバー全員の方向を定める、進捗をまとめて時間的に目標に間に合うようにする、見栄えのあるプレゼンをして、良い印象を持って正しく制作物を理解してもらう、などを行います。

反省としては、例で挙げたもののうち、メンバーの意見の方向を定めることしかやれていないということです。逆にメンバーの意見は正しく疎通できていたところが私の仕事での受賞につながった唯一の部分だと思います(受賞できたのは単に開発を非常に頑張ってくれた宮崎、船越、永溝、平塚のおかげです)。残りの挙げていた部分は全くできてなく、進捗をどうやってうまく挙げてもらえるかの工夫や、モチベーションの維持の方法は全く考えてなく、考えても実行に移さず、プレゼンに至っては前日から書き始めるということをしてしまいました。できなかったところはスケジュールの管理や人前でプレゼンをしなさいといけなさいということを経験しすぎていたところにあると思います。次からはスケジュールを常に確認することをしなさいといけなさいと感じました。

今回の成功で学んだことは、全員が懸命に頑張れば、このような素敵な賞を受賞することができるということ、意識の統一を図る点においてはそれなりにできていたこと、スケジュールの確認を怠るとろくなことが起こらないこと(今まで何回言ってきただろうか)がわかりました。

高専プロコンなどのリーダーをするのはとても難しいし、実際正常に動作できなかったですけど、それでも楽しいことがとても多いので皆さんも経験しても見るのいいと思います。

スケジュールの管理の必要性を感じたにもかかわらず、反省を生かせず、1か月前に書いた高専通信用の提出忘れのおかげで原稿を1日遅れで提出したことをここで反省してもっと時間にシビアになりたいと思います(1か月前に原稿を書いたことだけは成長したと実感しています)。



SuperCon2015に参加して

制御情報工学科 2年 菅野 暁

8月に、私たちプログラミング部2チーム6名はSuper Computing Contestというスーパーコンピュータ(以下、スパコン)を使って複雑な問題を4日間で解くプログラミングコンテストに参加しました。

このコンテストは、全国各地から関西、関東それぞれの会場に10チームずつ集まり、プログラムの良さを競うもので、今年で21年目となります。

初めに問題を見たときは、随分と手強い問題のように見えました。1,2日目は、方針を話し合い、チームで協力してコーディングを始めましたが、成果は思うように得られませんでした。この状態のまま3日目を迎えましたが、幾つかのバグに阻まれ、半ば諦めかけていました。具体的には、スパコン上で動くプログラムについてあまり理解が進んでおらず、何をすればプログラムが良くなるのか全く分かっておりませんでした。

考えられる手段を取ってみても殆ど効果がなく、むしろ悪化することもありました。ですが、「周りのチームも経験が足りないのは同じだろうから、もう一度最初から考え直す余裕はあるだろう。」という話が挙がりました。そして、思い切ってプログラムを一から書き直したとき、これまでのプログラムを想定外な程に上回るものが完成したのです。

このプログラム中にヒントを得た私たちは勢いに乗り、周りのチームよりも良いプログラムを書き上げることができました。4日目にもチームの知恵を振り絞ってプログラムの向上を図りましたが、残念ながら思うようにはいきませんでした。

最終的に、私たちはある程度戦い得るプログラムを提出したと思っていたのですが、事前に聞いていた強豪チームに対抗できるとは思っていませんでした。表彰式で僕たちのチームが2位と発表されたとき、驚きを隠せずにいましたが、1位の圧倒的な成績を見て少し落胆してしまいました。

この大会を通して、自分の実力不足を痛感しました。この悔しさをバネに、これからも精進していこうと思います。



高専ロボコン2015を終えて

ロボットコンテスト部部长 石橋 健太

2カ月前の10月18日、NHK高専ロボコン2015九州沖縄地区大会が長崎県佐世保市で行われた。久留米高専はAとBの2チームが参加し、Aチームはベスト8、Bチームは惜しくも1回戦敗退という結果となった。ちなみに、大会で我が校のチームが得点し、勝利したのは9年ぶりである。ようやく部員のたゆまぬ努力が実を結んだ大会であったと思う。

さて、あまり堅苦しい話を書いても読者の方々には読んでいただけない(もう読まれていないかもしれないが)と思われるので、今年の活動を振り返って特に印象に残った出来事を挙げていこうと思う。

まず、4月にルール発表が発表されて、フィールドを作ろうとなったことである。フィールドの一部である3mのポール(棒)などが諸事情で入手できなかったのである。しかし、このポールがないと練習ができないため、部員宅の裏山から竹を持ってきて組み合わせて作製した。ポールを自作したのは全国の高専の中でも我々だけであろう。取ってきた竹でポールを作る前に、校長先生と流しうめんをしたことはいい思い出である。

話は飛んで大会当日のことを書こうと思う。大会当日、いざロボットを動かそうとしたところ、動かないのである。原因は、我々の使っている無線通信モジュールの電波が、他の高専の発する電波の強さに負けていたことであった。この問題は、他高専が一切使っていなかった赤外線通信を用いることにより回避することに成功した。通信方式としては古く、照明による外乱に弱いという欠点があるため、設備が揃っていない他高専はどこも使っていないのである。フィールドの外から身を乗り出してコントローラをロボットに近づけることにより、何とか操縦可能になる程度に、照明による外乱を抑えた。

これらのように、苦労の絶えない1年であったが、得られるものも多く、充実した1年であったともいえる。しかしながら、Bチームのロボットは1回戦敗退と、結果を残せていない。今年を含む今までの経験を生かし、来年は両チームとも勝利を目指していきたいと思う。

最後になったが、我々が活動できるようご尽力くださった部員の保護者の方々、顧問の先生方、技術職員の方々、学生課の方々、後援会の方々にこの場を借りて感謝の意を表したいと思う。

高専大会優秀者・学生表彰

九州大会を終えて ラグビー部主将
生物応用化学科 4 年 中尾 元洋

11/14～17に行われた九州大会では、準優勝という結果に終わりました。佐世保高専との決勝戦では、前半を7-5とリードするも、後半に逆転されて巻き返すことができませんでした。チームの実力を考えれば勝てるチャンスもあっただけに、とても悔しく、また、主将であるにも関わらず決勝戦でグラウンドに立ち続けることができず、試合に貢献できなかったことを残念に思います。

しかし、1月に開催される全国大会では、九州・沖縄地区の第二代表として出場することができます。昨年の全国大会では準決勝で敗退したため、今年は決勝進出を目標にしましたが、新たに佐世保高専へのリベンジも目標に加え、全国大会までの間、部員一同でより一層練習に励んでいきたいと思っておりますので、引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。



硬式野球部

電気電子工学科 5 年 長岡 伸太郎

硬式野球部は8月に開催された第42回全国高等専門学校体育大会野球競技に出場しました。今大会は久留米高専が競技担当校であり、開催校枠での出場でしたが、あくまで全国制覇を目標に大会に臨みました。初戦は香川高専高松キャンパスとの対戦で、序盤2点のリードを許す苦しい展開でしたが、中盤で同点に追いつき終盤に勝ち越すという理想的な試合運びを展開し、4対2で勝利しました。翌日の準決勝は近畿大学高専との対戦で、1点を争う一進一退の攻防でしたが、終盤ミスにより失点し、惜しくも4対6で敗れ3位入賞という結果に終わりました。新チーム結成当初から全国制覇を目標に練習に励んできたので、3位という結果には悔しさが残りますが、今は五年間野球を続けてきて本当によかったという達成感でいっぱいです。全国制覇は後輩たちに託したいと思いますし、きっと成し遂げてくれると信じています。最後に顧問の先生方をはじめ、ここまで支えてくださった方々、応援して下さいました方々、本当にありがとうございました。



全国高専大会

制御情報工学科 2 年 藤村 統太

私は8月に鹿児島で行われた全国高等専門学校体育大会の水泳競技に出場しました。2回目の出場となった今回は400メートル自由形で優勝することができました。去年は同じ種目で3位という結果だったので優勝できて嬉しかったです。また、この全国大会に進むための九州大会では、200メートルと

400メートル自由形の2種目で優勝することができました。全国大会には全国各地からたくさんの選手が集まっていて全国大会ならではのピリッとした雰囲気になりとても緊張しましたが、集中して大会に臨むことができ、自分の持つ力を十分発揮できたと思います。表彰台にのってメダルをかけてもらった時の喜びは忘れません。この大会では優勝したことのほかにも、他高専と交流できたことや九州の高専で集まって応援したり先輩たちと仲良くなったりなどいろいろと勉強になったし、とても楽しかったです。競泳は個人種目だけど、チームとしての団結力も大切だと思うので水泳部のみんなでこれからも頑張っていきたいです。また個人としては来年も全国大会で優勝できるように1年間一生懸命頑張っていきたいと思います。

World Materials Day Award
最優秀賞を受賞して

専攻科物質工学専攻 1 年 成清 香名子

私たちは「材料に関する知識とその重要性を社会や若者に啓発する活動」に貢献があった学生を顕彰するWorld Materials Day Awardにおいて最優秀賞を受賞しました。私たちはこの応募に際して「様々な視点から金属を観察する」ことをテーマとし、三つの異なる視点からのアプローチを行いました。まず、物理化学からの視点として、身近な金属であるアルミニウムの酸化による発熱反応を利用したカイロづくりについての発表を行いました。二つ目に、金属の凝固からの視点として、デカンテーションという手法を用いて、金属が凝固する様子を肉眼で観察するための実演を行いました。これら二つのテーマは「創造工学実験」という、自ら実験のテーマ、方法を決定して実験を進める科目で取り組んでいた内容であり、夏休みに行われる体験入学で実演を行うことを目標に考えたものです。三つ目の視点は金属の歴史とし、青銅鏡の作製を行う中学生向けの公開講座についての説明を行いました。当日はポスターの展示や実演を行いました。日頃から子どもたちに向けて材料の魅力について広める活動を行っているという点が評価され、最優秀賞をいただくことができました。こうして私たちの日々の活動を評価していただき、非常に嬉しく思います。



材料の魅力を発信したい

専攻科物質工学専攻 1 年 新田 寛和

今回World Materials Day Awardの第1部門「社会における材料の重要性を示すホームページ」の部門賞を受賞しました。チームで作成したホームページでは「目で感じる材料の不思議」というテーマで創造工学実験とは専攻科1年の授業であり、自分でテーマや実験方法を考え自主的に実験する授業です。私は当てた光の色に変色する材料を行いました。他にもホームページでは光触媒や磁性流体、人工ルビーなど目を引く材料を紹介しました。材料工学というのは一見何を勉強するのか分かりにくく、とっつきにくい分野かもしれませんが、しかし学べば学ぶほど、身の回りを構成しているものについて興味が広がり、どんどん面白く感じる分野でもあります。材料工学について知ってもらおうきっかけになって欲しい、今回作製したホームページにはそういった想いを込めました。そうして作製した作品が受賞したことには大変嬉しく思います。

第52回九州沖縄地区高専体育大会(夏季)の主な成績(7月11日～19日)

バレーボール	男子		優 勝	全国大会出場
バレーボール	女子		準優勝	
バスケットボール	男子		準優勝	全国大会出場
ハンドボール			第3位	全国大会出場
卓球	男子団体		第3位	
バドミントン	女子団体		第3位	
	女子ダブルス	5C 倉員 佳奈絵、5C 清野 保菜美	第3位	
	女子シングルス	5C 神之園 那帆	第3位	
陸上競技	110mハードル	5E 足立 智一	第1位	全国大会出場
	三段跳び	3A 後藤 良輔	第5位	全国大会出場
水 泳	男子200m自由形	2S 藤村 統太	第1位	全国大会出場
	男子400m自由形	2S 藤村 統太	第1位	全国大会出場
	男子800m自由形	1M 國分 雅斗	第1位	全国大会出場
	男子200m個人メドレー	1M 國分 雅斗	第1位	全国大会出場
	男子50m自由形	2M 田中 将太	第4位	全国大会出場
柔 道	90kg以下級	3M 田端 侑典	第3位	全国大会出場

第50回全国高等専門学校体育大会(夏季)等の成績(8月14日～30日)

硬式野球			第3位
水 泳	男子400m自由形	2S 藤村 統太	第1位
	男子800m自由形	1M 國分 雅斗	第5位

第21回スーパーコンピューティングコンテスト(8月17～21日)

チーム名WestDiv	2S菅野暁、2S前田南樹、1S岸川拓磨	第2位
-------------	---------------------	-----

第52回九州沖縄地区高専体育大会(冬季)の主な成績(11月14日～17日)

ラグビーフットボール		準優勝	全国大会出場
------------	--	-----	--------

平成27年度(平成28年3月)卒業予定者の就職内定状況

平成27年11月24日現在

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
三菱日立パワーシステムズ株式会社 株式会社崎製作所 三菱化学株式会社 ジャパン マリンユナイテッド株式会社 株式会社カシフジ 安全自動車株式会社 株式会社マツダE&T 株式会社小田原エンジニアリング 西部電機株式会社 ヤンマー建機株式会社 株式会社IH ANAインテグレーション株式会社 新日鐵住金ステンレス株式会社 株式会社明電舎 積水テクノ成型株式会社 日本精工九州株式会社 ダイハツ工業株式会社 独立行政法人国立印刷局 黒崎播磨株式会社 福岡酸素株式会社 株式会社ニコン 新日鐵住金株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 株式会社三松 東洋鋼板株式会社 九州武蔵精密株式会社 空研工業株式会社 ダイキン工業株式会社 オイレ工業株式会社 第一精工株式会社	東燃ゼネラル石油株式会社 イオンディライト株式会社 大分キヤノン株式会社 ソニーセミコンダクタ株式会社 株式会社OGCTS(大阪ガスグループ) パナソニックシステムネットワーク株式会社 株式会社朝日ブリントック 東海旅客鉄道株式会社(JR東海) 東芝メディカルシステムズ株式会社 関西電力株式会社 株式会社NTTフィールドテクノ 西部ガス株式会社 エス・エス・エス・エス株式会社 株式会社ディー・エス・シー ソニーコーポレートサービス株式会社 株式会社JALエンジニアリング キヤノンシステムアンドサポート株式会社 川重テクノロジー株式会社 株式会社栄電舎	京セラコミュニケーションシステム株式会社 キヤノンシステムアンドサポート株式会社 株式会社メンバーズ 中国電力株式会社 TOWA株式会社 株式会社日本ビジネスエンジニアリング 大電株式会社 福岡空港ビルディング株式会社 中部電力株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 セイコーエプソン株式会社 株式会社富士通九州システムサービス 株式会社明電舎 株式会社MJC NSウエスト株式会社 関西電力株式会社 株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング	大日精化工業株式会社 昭栄化学工業株式会社 一般財団法人化学及血清療法研究所 昭和電工株式会社 大分コンビナート クロレラ工業株式会社 小川香料株式会社 DIC株式会社 大阪ガス株式会社 シオノギ分析センター株式会社 アステラス ファーマ テック株式会社 関西グリコ株式会社 テバ製薬株式会社 ニプロ株式会社 花王株式会社 東燃ゼネラル石油株式会社	株式会社名村造船所 グローブライド株式会社 磯部鉄工株式会社 株式会社アーレスティ 宇部興産株式会社 ダイキン工業株式会社 株式会社ファインテック 新日鐵住金株式会社 京セラ株式会社 鹿児島国分工場 日本精工株式会社 ソニーセミコンダクタ株式会社 株式会社シマノ 株式会社廣取製作所 NOK株式会社 阪部工業株式会社 株式会社コベルコ科研 ダイジェット工業株式会社 東プレ九州株式会社 九州武蔵精密株式会社 日本ビストンリング株式会社 株式会社三井三池製作所 DOWAサーモエンジニアリング株式会社

平成27年度(平成28年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

平成27年11月現在

機械・電気システム工学専攻	求職者 6 男 6 女 0 内定者 3 男 3 女 0	スター精密株式会社 九州旅客鉄道株式会社(JR九州) アドソル日進株式会社
物質工学専攻	求職者 4 男 2 女 2 内定者 4 男 2 女 2	株式会社日本触媒 沢井製薬株式会社 丸東産業株式会社 高周波熱線株式会社

平成28年度 久留米高専専攻科合格状況

学 校 名	志 願 者 数				受 験 者 数				合 格 者 数									
	機 械	電 気	制 御	生 化	計	機 械	電 気	制 御	生 化	計	機 械	電 気	制 御	生 化	計			
久留米高専攻科(推)	2	1	1	4	12	2	1	1	4	12	2	1	1	4	12			
久留米高専攻科(学)前期	6	12	11	9	5	43	6	10	10	9	5	40	2	9	7	6	3	27
久留米高専攻科(学)後期	3	3	3	0	2	11	3	3	3	0	2	11	1	2	3	0	1	7
合 計	11	16	15	13	11	66	11	14	14	13	11	63	5	12	11	10	8	46

平成28年度 他高専専攻科合格状況

学 校 名	志 願 者 数				受 験 者 数				合 格 者 数						
	機 械	電 気	制 御	生 化	計	機 械	電 気	制 御	生 化	計	機 械	電 気	制 御	生 化	計
北九州高専専攻科	1				1	1				1	1				1
佐世保高専専攻科					0					0					0
有明高専専攻科					0					0					0
沖縄高専専攻科					0					0					0
豊田商業高専専攻科					0					0					0
合 計	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	1

平成28年度 専攻科 大学院合格状況

大 学 院 名	受 験 者 数				合 格 者 数			
	機械・電気 システム 工学専攻	物 質 工 学 専 攻	計	計	機械・電気 システム 工学専攻	物 質 工 学 専 攻	計	計
九州大学大学院(総理工:推)	1	2	3	3	1	2	3	3
九州大学大学院(総理工)	2	4	6	6	2	4	6	6
九州大学大学院(システム生命科学)	1	1	2	2	1	1	2	2
九州大学大学院(システム情報科学)	1		1	1	1		1	1
九州大学大学院(工学)	1		1	1	1		1	1
九州工業大学大学院(生命工学研究科)	1		1	1	1		1	1
九州工業大学大学院(情報工学府)	1	1	2	2	1	1	2	2
東京工業大学大学院(総合工学)	1		1	1	1		1	1
大阪大学大学院(工学研究科)	3		3	3	3		3	3
筑波大学大学院(システム情報工学)	2		2	2	2		2	2
北陸先端科学技術大学院大学		1	1	1		1	1	1
奈良先端科学技術大学院大学	2		2	2	2		2	2
電気通信大学大学院(情報システム学研究科)	1		1	1	1		1	1
北九州大学大学院(国際環境工学研究科)	1		1	1	1		1	1
熊本大学大学院(自然科学研究科)		1	1	1		1	1	1
合 計	18	10	28	28	12	7	19	19
重複者を除く実数	9	7	16	16	9	7	16	16

平成28年度 大学編入学合格状況等

平成27年10月21日現在

大 学 名	志 願 者 数				受 験 者 数				合 格 者 数									
	機 械	電 気	制 御	生 化	計	機 械	電 気	制 御	生 化	計	機 械	電 気	制 御	生 化	計			
豊橋技術科学大学(工学:推薦)	4	2			6	4	2			6	2	2			4			
	3	14	1	12	30	3	7	1	4	15	2	6	4		12			
九州大学(工学)	2	7	4	3	16	2	5	4	2	13	1	4	2	2	9			
九州大学(経済)			2		2					0					0			
九州大学(芸術工学)	2				2	2				2	1				1			
九州工業大学(工学:推)	1	3			1	5	1	3		1	5	2		1	3			
九州工業大学(情報工学:推)			3		3			3		3					3			
佐賀大学(理工学)			2	1	3				2	2			2		2			
熊本大学(工学:推)	1				1	1				1	1				1			
熊本大学(工学)	1	8	5	4	18	1	3	5	4	13	1			3	4			
岡山大学(工学)	1	2		2	5	1	2		2	5	1				1			
広島大学(工学)		3			3		3			3	1				1			
広島大学(生物生産学)				2	2			1		1			1		1			
広島大学(経済学)			1		1			1		1			1		1			
大阪大学(基礎工)			1	1	3			1		2					0			
大阪大学(工学)	1	1	1	1	5	1		1	1	4	1				1			
神戸大学(農学)				2	2				2	2			2		2			
神戸大学(工学)	1	1			2	2	1	1		2					0			
名古屋大学(工学)	1	1		2	4	1			2	3			1		1			
名古屋大学(工学:推)					1	1			1	1					0			
名古屋工業大学(工学)	1				1	1	1			1					0			
金沢大学(理工学)	1				1	1				1					0			
東京大学(工学:推)	1				1					1					0			
東京工業大学(工学)	1	1		2	2					0					0			
東京工業大学(生命理工学)			1		1			1		1			1		1			
東京農工大学(工学)	1				1		1			1					0			
首都大東京(都市環境学部)	1				1					0					0			
首都大東京(システムデザイン学部)	1				1	1	1			1					0			
横浜国立大学(理工学)		1	1		2		1	1		2			1		1			
筑波大学(理工学)	1				1					0					0			
筑波大学(情報学)		4			4			4		4		2			2			
埼玉大学(工学)		1			1		1			1					0			
埼玉大学(工学:推)	1				1	1				1	1				1			
千葉大学(工学)		1	1	3	1	1	1		1	3	1		1	1	3			
東北大学(理学)			1		1			1		1					0			
北海道大学(工学)				1	1					0					0			
高知工科大学(工学:推)				1	1				1	1					0			
電気通信大学(情報理工学部)	1				1	1	1			1	1				1			
福井大学(工学)	1				1		1			1					0			
京都工芸繊維大学	1	1		2	2					0					0			
北九州市立大学(国際環境工学)		1		1	1	1		1		1	1		1		1			
大阪府立大学(工学)	1				1	1				1					0			
芝浦工業大学(工学)				1	1					0					0			
同志社大学(理工学)		1			1					0					0			
合 計	23	54	25	31	13	146	21	34	22	20	10	107	8	19	10	15	5	57
重複者を除く実数	13	27	14	16	9	79	13	21	14	9	9	66	8	17	9	8	5	47

本号掲載記事の無断転載を禁止します